

## 令和5年度事業計画

### 1 協議会全体としての取組み

#### (1) 農林水産省の補助事業を活用した活動

オーガニックシルクについては、昨年度の「有機繭の生産及び表示に係るガイドライン」に引き続いて、有機繭から有機生糸までの製糸工程について有機のガイドラインを策定するとともに、有機的な製糸工程の実証事業を行う。

また、ガイドラインに基づいた有機繭の生産を行い、オーガニックシルクの需要開拓に向けた製品の試作を行う。

シルクの機能についての情報発信については、昨年行った情報提供手法の検討を踏まえ、着衣時のシルクの機能について調査を行い、その結果を消費者等に分かりやすく情報提供する。

また、オーガニックシルクや純国産シルク等シルク製品における強調表示に対する信頼性を担保する手法としてトレーサビリティシステムの利用についても検討する。

さらに、養蚕指導者が高齢化してきていることに対応するため、養蚕における技術ポイントの動画を作成し、新規参入者等への配信を行う。

#### (2) 協議会独自資金による活動

会員相互の交流の場であるネットワーク交流会を今年度も開催する。

### 2 各分科会における取組み

#### (1) PR分科会

全国シルクビジネス協議会での情報発信を随時HPにて行う。養蚕の情報発信のための動画作成においては、取材先の紹介、サポートを行う。シルク関連の展示会の情報があれば、出展を検討する。

#### (2) 蚕糸分科会

農水省と協力して若手養蚕農家の情報交換会を開催し、若手養蚕農家のネットワーク化を引続き進める。また、国産シルクの新たな需要開拓を目指す事業者とそのような取り組みに関心のある意欲ある養蚕農家とのマッチングを図るための意欲ある養蚕農家のリスト化についても引続きを進める。

また、蚕糸関係の各地の博物館と連携して、夏休みに子供たちにカイコを配布し、カイコの飼育を体験してもらう「カイコを育てよう！2023」の取組みを行う。

#### (3) 新機能シルク分科会

超極細・高染色性繭糸生産系統などの遺伝子組換え品種の飼育範囲を稚蚕

に広げるための、孵化幼虫から繭までの第一種使用等による隔離飼育試験を開始する。また、蚕種製造のための原種の飼育についても隔離飼育試験を行う。この際、試験計画については第一種使用規程承認までの間に規制当局と情報交換の上最終決定する。

#### (4) 繊維分科会

国産生糸群馬県産ナツコや福島県産松岡姫を使ったウオシャブルシルク横網み用糸の販売拡大に取り組む。ナツコに関してはトゥモローランドから8月上市、松岡姫に関してはセリーヌへ輸出やワコール向けに商談が進んでおり、それ以外の社への販売も今後進めていく。遺伝子組み換えカイコ黎明を活用したウィックのベース用糸の量産加工の目途が立ってきており、今後、植毛テストへと進めていく。

#### (5) 新用途分科会

大学および企業のネットワーク強化を計るため、繊維学会、シルク学会等の関連学会との共同事業を進める。具体的には、学会との共催形式での交流会やシンポジウムを実施するとともに、個別プロジェクトに対するコンソーシアム構築等について協力できる仕組みを検討する。また、会員間での共同研究を軸とした競争的資金獲得へのおよび社会実装への取り組みを進め、医療・環境・食品・化粧品等、シルクの多用途展開を目指す